

断酒 みどりの友

発行所 呉みどり断酒会
事務局
呉市 押 込 5-12-25
渡部 憲方
郵便番号 737-0915
電 話 33-5571
発行人 渡部 憲
編集代表 石橋 剛
印 刷 松広印刷機



第 43 回広島県断酒(因島)大会にて



螺旋階段を登るが如し

断酒継続

常任理事 石橋 剛

平成 4 年 4 月 20 日、勤めていた

京都の建設会社を 3 月末日に辞め、
下戸の親元に帰ると同時に毎日飲
んでたお酒を止めました。すると、
二週間を過ぎた頃から幻覚、幻聴
が酷くなり、私が狂ったと思った
親父に長尾の精神病院に連れて行
かれ、そこでアルコールの禁断症
状と解り、みどりヶ丘病院に入院
となりました。それからが、私の
アルコールとの葛藤の始まりで、
みどり会やふたば会の先輩達も御
存知のとおり、アルコール依存症
と認める事が出来ずに入院を繰
り返し、醜態を晒し続けてました。
振り返ってみると、院長先生か
らは事ある度に『もつと素直にな
れ。』としか言われませんでした。

その頃の私は『自分程、素直な人
間はいない。』と嘯いてました。
しかし、それは先生の言われる自
利でしかない事に気付き、このま
までは自分は駄目になってしまっ
と思い始めたのは、久しぶりに昔
の同僚と仕事の話をした時、付い
て行けない自分自身を知った時で、

8 年の月日が経っていました。

それから、みどり会に何度目か
の入会をするのですが、やはり我
欲には勝てずに再飲酒。でも、今
回は自ら望んで何度目かの入院を
し、退院して現在に至っています。

例会や研修会に参加し、家族の
方の体験を拝聴していると、入院
を繰り返した頃の両親や兄弟の
思いが想像でき、過ちは繰り返す
まいといつも言い聞かせています。
今回、みどり会に繋がるにあた
り、親しくして頂いている方から

『迷惑をかけた人達の信頼回復は一
朝一夕では出来ない。』先ずは、
自身の生活姿勢を変える事が大切。
亦、断酒継続は、螺旋階段を毎日
一段、つつ登る様なもの。毎日見る
景色は変わり映えないが、月日
が経ち、それなりに登って見る周
りの景色は変わってことに気付
く筈』と助言を頂きました。僅か
の間、断酒をして来ましたが。確か
に私の周りの景色は変わりました。
今後、どんな景色に変わるのかを
楽しみに一日断酒で頑張ります。

第43回広島県断酒(因島)大会

梅雨空の6月9日(日)、尾道市因島市民会館に於て、広島県断酒会連合会主催(主管・尾道断酒うず潮会、三原断酒友の会)で、第43回広島県断酒(因島)大会が、405名の医療・行政、県内外の朋友会員・家族の方達の参加を頂いて盛大に開催された。当会から41名の会員・家族が参加。



指し、5年前から広島県連主催で毎月一回、因島の中庄公民館に於て愛媛県を含めた近隣の酒害者を対象に断酒例会が行われており、中田克宣県連会長のあいさつの中で触れられた、早急に因島に断酒会を再興させる必要性を訴えられたことから、今大会開催の意義が伺えられた。

大会のテーマは『共に生きる』サブテーマ『自助から共助へ心の伴』をもとに進められた。

体験発表は、県連加盟断酒会から5名が本人・家族の立場から行われた。呉みどり断酒会からは、鍋山秀一さんが本人の立場からの体験を淡々とした口調で...。それは、自身が過去に仕出かした酒害体験を振り返り、改めて自省し、自身がこれから営んで行く生活姿勢を自身に言い聞かせるように一言一言ゆつくりとした口調で語られ、多くの参加者の共感を呼んでいた。

記念講演は全断連・県連顧問・呉みどりヶ丘病院院長・長尾澄雄先生が「断酒の道は人の道」と題して、アルコールを始めとする色々なものへの依存に至る原因を話され、自己中心的な欲望が満たされず、自らの利己的な欲求不満(自利)が原因となつてゐることを知らない...云々。自利を解消させるには、その逆の(利他)に目覚め、



撤すること...云々。酒により迷惑をかけ、その償いのために断酒をする姿勢は、自利を捨て、智慧に目覚めて心の自由を持つた事と話され、断酒生活を基に人としての生き様をわかり易く解いて頂いた。最後に有意義な時間と場所を提供して頂いた尾道断酒うず潮会と三原断酒友の会の皆様に感謝しております。有難うございました。

体験発表



鍋山 秀一 (本人)

皆さん、こんにちは。本日は、第四十三回広島県断酒(因島)大会の場で体験発表の機会を与えて頂き、有り難うございます。呉みどり断酒会の鍋山秀一です。宜しくお願ひ致します。私が生まれ育つた家は兼業農家で、父親は冬場、造り酒屋に勤めており、家には何時もお酒がある環境でした。何かあるごとにお酒を飲む習慣に私は何の抵抗もなく、小さい頃からお酒の匂いや味が好きでした。父は厳格で、まじめな性格でしたが、お酒が入ると、ちよつとしたことで怒り出し、怖くて逆らうことのできない存在でした。怒られるのが嫌で何か都合があると嘘を付き、自分を正当化することが当たり前になってきました。私は「いい子」になることが身に付き、大人になつても

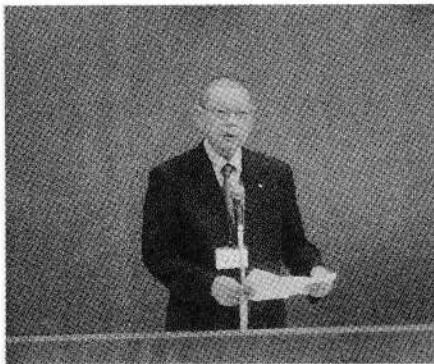
「自分は悪くない」「周りが…、人が悪い」というような考え方をするようになっていました。

高校を卒業して社会人となり、お酒を飲む機会が増えていきました。本格的にお酒を飲み出したのは、結婚して五年位経った頃からです。最初は寝酒から始まった飲酒は、段々と飲む量が増え、焼酎を覚えてからは、毎日飲むことが当たり前になって行きました。それでも若い頃は、幾ら飲んでも二日酔いで会社を休むこともなく、「酒に強い」と言われることに優越感さえ覚えていました。

今から十一年前のことです。私は、椎間板ヘルニアを患い、手術をすることとなりました。ちょうどその頃、妻は今まで遣つてみなかった新しい仕事に行くことが決まっていました。私の入院のこと、子供達のこと、新しい仕事のことなど大変そうでした。私はいうと、ちょうどその年にワールドカップ大会があり、「入院期間中、一日中サッカーが見られるから、ちょうど良かった」と能天気なことを考えていました。不安とさえば、お酒が飲めないことと、「酒を飲まない、手が震えはしない

だろうか…!!」という思いしかなく、妻のことなど一つも考えずに自分勝手な思いのまま入院してました。入院中は、子供達の世話の合間を縫って、仕事帰りに見舞いに来てくれる妻に感謝の気持ちもなく、「見舞いに来るのは当たり前」くらいにしか考えていませんでした。

どうにか手術も無事に済み、リハビリを始めた頃のことです。入院中は「病院でお酒を飲むと強制退院させられる…」という思いで、お酒を飲むのを我慢していました。が、身体の調子が良くなり、退院が間近になると「いつ追い出されてもいい」と思うようになりました。リハビリと称して、片道二十



分ほどあるコンビニにお酒を買いに行くようになりました。久しぶりに飲んだお酒は、食道から胃の中を「キユツク」と通り抜け、「ああ、やっぱりお酒は美味しい」と言いながら、病院までの坂道を帰ったことを思い出します。

病院を退院すると、私のお酒の飲み方はエスカレートしていきました。二ヶ月もお酒を飲まずに居られたし、手も震えなかつたので「自分はアル中じゃないことが証明された…!!。何時でもお酒はやめられる」と思い、貪るようにお酒を飲むようになりました。平日は、焼酎を四合から五合、休みの日は、朝から一升位飲むのが日課になっていました。いつの頃から、脂汗が出て、夜は眠れず、手が震えて字もまともに書けなくなり、会社でも仕事に支障をきたすようになりました。御飯が食べられず、妻が仕事に行く前に朝早くから「せつせ」と作ってくれた弁当も喉を通らず、帰りに田んぼの畦道に捨てて帰ったことが何度もありました。

私は、自分の身体の調子が悪いのは「酒のせいかも知れない」と思いながらも、「自分は大丈夫!!」

アル中にはならない」と言い聞かせ、飲み続けました。休み明けの仕事は取り分けしんどくて、午前中は何とか我慢をして会社に居ましたが、昼には「調子が悪い」と言つて早退しました。妻には「風邪をひいて体調が悪いから」と嘘をつき、近所の内科に風邪薬をもらいに行つて二週間ほど会社を休みました。その時に私が考えたことは、「会社に申し訳ない」とか、「お酒を控えよう」とかではなく、「妻が仕事に行っている間は、好きなお酒が飲める!!」という勝手な思いでした。焼酎と風邪薬と一緒に飲み、妻が家に帰るころには布団に入つて調子が悪そうな顔をして寝ていました。そんなことを何度か繰り返していましたが、今思えば、その頃はすでにアルコール依存症の病魔に侵されていたと思います。

また、私は飲酒運転の常習者でもありました。「お酒を飲んで運転しても捕まらなければ、事故さえしなければ大丈夫…!!」位にしか考えていませんでした。二日酔いで車を運転するのは当たり前、ある時、私の仕事が休みの日に、妻が私にお酒を飲ませまいとし

て、職場に送り迎えを頼んで来ましたが。朝はお酒を飲まずに送って行ったのですが、家に帰ると夕方までには時間があるので「ちよつとくらいは大丈夫」と思い、一杯飲みました。お酒が入ると「もう一杯なら大丈夫」「これで最後」「もうちよつと時間があるので、もう一杯だけ：//」と、かなりの焼酎を飲んでいたと思います。夕方になり泥酔状態のまま、飲酒運転で妻を迎えに行きました。私は、その時のことをあまり覚えていません。後から聞いた話によると、車は蛇行運転を繰り返して、ガードレールにぶつかりそうになったり、歩いている人の横をすれすれで通り過ぎたりして、生きた心地がしなかったそうです。お酒をやめても暫くの間、私の運転する車に妻が乗ると、動悸がして冷や汗が出たり、歩いていて人がいると「気を付けて」と叫んだり、その時のことを思い出して怖い思いをさせました。

ある日、朝目覚めると左腕の肘から下が全く動かなくなり、病院で自律神経失調症と診断され、会社を休むこととなりました。御飯も食べずに一日中暗い部屋に引きこ



昨年の山陰断酒学校で

もり、いつ回復するかわからないうつ状態が続きました。半年もの間、どうしようもできなかった私を見てきた妻は、その時のことを「真つ暗闇の出口のないトンネルの中に居るようで、これからどうすればいいのか」不安で心細かったそうです。やつとうつ状態から回復してきた頃、病院で、アルコール依存症と診断されました。

「お酒を飲んではいけない」と言われた私は、酒を飲まない生活など考えられず「どうやってお酒を手に入れて飲もうか：//」「どうやったら、見つからずにお酒が飲めるだろうか」と、隠し酒が始まりました。家の外にある物置やエ

アコンの室外機の裏、天井裏などに隠していました。それが見つかったら、家の周りにはお酒を隠しておけないので、車のトランクのタイヤハウスに焼酎の一升パックを隠して「健康のためにウオーキングをする」と言つては、一升パックから蓋付きのワンカップに焼酎を入れ替え、飲みながら歩いていました。お酒が無くなると、家中の小銭をかき集めたり「会社の同僚の親が亡くなった」と嘘を言つては、お金を貰ったり、妻の財布からお金を抜き取ったりしてました。段々と、私の行動がおかしくなつて行くことに妻は疑いを持つようになり、好きな仕事を辞めました。私はそれに逆らうかのように今まで以上に自分のこと、お酒のことしか考えられなくなつていきました。

今から四年前、車のトランクに隠してあつた焼酎を何時ものようにワンカップに移し、飲みながら歩いていました。ブラックアウトに落ち、池の畔の道端で手足から血を流して倒れていた処を近所の人知らせてくれ、妻が家に連れ帰ってくれました。妻は病院に連れて行くために私を車に乗せよう

としたのですが、三歩進んで二歩下がり、やつと玄関まで辿り着いて外まで連れ出すと、今度は地べたに横になって手足をバタ付かせ、駄々を捏ねていたそうです。結局、四、五十分掛かつて車に乗せられ、呉みどりヶ丘病院に連れて来られた私は、即入院ということになりました。後からこのことを聞いた時、恥ずかしくて、情けない思いで一杯になりました。

入院当初は、「しまった：//」。飲まなければ良かった」と後悔し、暫くすると会社のことになり、「早く退院したい」ということばかり考えていました。院内例会で妻が「胸に大きな穴が開いて、風が通り抜けるような感じだった」と、入院当初の気持ちを話しました。また、娘は私の入院のことを仕事場の人に興味本位で掘り葉掘り尋ねられ、泣きながら妻に訴えたそうです。それを聞いた私は、初めて自分の遣つたことの大変さと、家族に迷惑を掛けてしまったことを知りました。

三ヶ月間の療養生活を送り、退院して呉みどり断酒会に入会しました。お酒を飲んでいる時は周りのことなど気にもせず、好き勝手

《断酒一年を迎えて》



名田 信之
(本人)

な行動をしてきました。好きで飲んだお酒でうつになり、アル中になって家族を騙しながら酒を飲み、入院して周りに迷惑を掛けてきました。断酒会に入ってから、断酒会に入っている意味をはき違え、少しの間「お酒をやめてるから」といつて偉そうにし、自分の間違いを素直に認められずに言い訳を言つて誤魔化し、拳句の果てに切れて怒り出し「お酒を飲むぞ」と脅したこともあります。まるで、お酒を飲んでる時と同じです。

しんどい…。苦しい…!!。自分だけが…。飲めば我慢できる…!!。その日は過ぎる。そして、毎日飲みました。私は間違つていないと思つていました。

一昨年の十一月から四ヶ月、呉みどりヶ丘病院に入院し、退院。その後、会社に復職し、六月で約一年が過ぎました。退院後は、自宅で療養し、すぐに会社に復職できると勝手に思い込んでいました。ところが、退院日に突然院長先生から、『自宅療養やすぐの復職は避け、明日からケアセンターに通え。そうせんと、お前さん死ぬで』と言われ、意味も分からず、素直に二ヶ月の間ケアセンターに通所後、復職しました。復職後も週に一度、必ず院長先生の受診と臨床心理士の方のカウンセリングを受けました。また、週二回の断酒会の例会出席、他とのスケジュールが調整できれば先輩達に誘つて頂き、各大会・研修会にも

参加させて頂いております。そして、一年が過ぎました。

思い返せば、酒を喰らつて帰宅途中に階段から落ちて頭から出血し、救急車で病院へ…。しかも二回。出勤時には二日酔いで酒臭く、『お酒と寝汗が混じつたような臭いで何とも言えん』『恥ずかしくて家にも居りたくない…』『お酒が一番大事なあんたには、つくづく愛想が尽きた…!!』と、元の奥さんにそう言われ、二人の小学生の子供達と一緒に去られました。それから突然、離婚調停の通知が裁判所から届きました。調停員の方から、『奥さんの意志は固いし、当然だと思ひます。貴方は、お酒を控えてまともな生活をして下さい。』



誘つて頂き、各大会・研修会にも



初めての松村断酒学校

そうすれば、定期的な子供さん達にも会うことができずよ…!!』と言われ、どうすることもできず、調停に応じました。しかしながら、断酒生活が一年を過ぎてても子供達には会えず、許してはもらえませんが、一番苦しく感じるのは、会社で週末の家族サーブスの話を耳にする時や、休日・ゴールデンウィーク・夏休み等の家族連れの風景を見る時です。そして、私の飲酒の犠牲となつた家族のことを毎日思い出し、後悔するときはです。

「悩んで、悩んで、何か出てきたか…?」「苦しみの元は何か。ねたみ、ひがみ、自分を憐れむこと。」「思い通りにはならん…!!」土曜日に院内で行われる例会の後の院長先生がよく言われる言葉です。日々の生活の中で、時々その言葉が頭に浮かび、救われていきます。また、例会では同じような過去や苦しみを持った仲間、一つ一つを克服されていった諸先輩がたくさん出席され、体験談を通じて励まされています。

これからも、例会出席・断酒継続を通じて、自身の家族や周りの人達に迷惑をかけ、自分自身も行き詰まった過去があるからこそ、

恥じない生き方。正しく考え、行動をしていく生き方を少しずつ身につけていきたいと思えます。

最近のことですが、今回、松村断酒学校に初めて参加させて頂きました。その中で幾つかの参考(糧)となる体験談がありました。中でも、私より若い男性の『過去には戻れない。他の方に思い通りに認めて頂くことはできない。しかしながら、未来と自分を変えられる!!』という言葉に共鳴しました。呉みどり断酒会や全国の断酒会の会員・家族の皆様の想いを自分の中に吸収しながら、その日その日を、目一杯乗り切っていきたいと改めて感じております。

最後になりましたが、院長先生をはじめ、病院職員の皆様、そしてこの一年間、温かい眼差しで接し、導いて頂いた呉みどり断酒会の仲間や諸先輩並びに家族の方々にこの場をお借りしまして感謝致します。有り難うございます。これからも宜しくお願い致します。今後、二人の子供達を大切に育ててもらっている元奥さんと、すくすく育っている子供達のことを思い、回復に向けた努力を続けていきたいと思っております。

第48回中国断酒ブロック

(島根) 大会

春の訪れが遅い奥出雲の地、雲南市三万屋文化体育館で、4月14日(日) 第48回中国断酒ブロック(島根) 大会・併せて島根県断酒新生活会創立45周年記念大会が、千二十七名の県内外からの朋友達が集い、盛大に開催された。

当会から三十五名の会員・家族が参加。今大会は、島根県断酒新生活会が公益社団法人の認可を受けた直後の開催とあって、関係者の



方達の御苦労のすえの善びを窺い知ることが出来た記念すべき大会でした。最後に、お世話をして下さった島根県の皆様にご厚くお礼を申し上げます。

第69回松村断酒学校

新緑が眩く映える、5月11~13日に『断酒の原点』とも言われる松村断酒学校が開校された。当会からは初参加者1名を含め、会員・家族の9名が参加。

亦、昨年からの当会の渡部会長から司会の後を引き継いだ曾根さんも二年目を迎え、司会も板に付いた様子!!。総勢三百二名の会場は、笑いと断酒幸福に包まれていた。

《松村断酒学校に参加して》



山内 鉄平 (本人)

第69回松村断酒学校に、会長はじめ9名の皆様と今年も参加させて頂いた。

呉の先輩(曾根さん)が、全国的な研修会で司会をされて、何だか少し鼻が高いような気持ちに：



車座での食事が楽しい

と同時に、目指すべき『断酒姿勢』というものを学ばせていただいた。同世代の仲間との交流を通して『絆』を深める事が出来た。中でも若い世代ならではの『恋愛談義』から得られるものはホントに多かった。

高知新聞の取材にも同席させてもらった。世間の人のアルコール依存症に対する認識には、少々ガツカリしながらも、丁寧に説明されていた先輩や、下司病院理事長の姿には、素直に尊敬の念を抱いた。

別れ際に、みんなから笑顔をいただき、多くの事を学ばせてもらった3日間に別れを惜んだ。晩春の宿泊所(体育館)は若干

寒い。しかし、それを吹き飛ばすほどの熱気に、今年も断酒の“糧”をいただいた。又、来年も参加させてもらおうと思った。

第19回山口県断酒セミナー

初夏を思わせる5月25、26日、第19回山口県断酒セミナーが山口県セミナーパークで開催された。恒例となった当セミナーに当会は初参加者1名を含め、9名が参加。セミナーは和気あいあいとした雰囲気の中で進められ、休憩時間や研修後の自由時間には、他会の方達と時間を忘れて体験談に花を咲かせて交流を深める事が出来、有意義な2日間を過ぎて頂いた。



最前列で…

**第12回鳥取県断酒会
—泊研修会**

連日の猛暑続きの去る7月20、21日、第12回鳥取断酒会—泊研修会が今年もホテル『大山』を会場に開かれた。



笑顔いっぱい6名

当会からも初参加者1名を含め6名が参加した。

《充実した大山—泊研修》



福永 里美
(アマシスト)

例年よりも早く梅雨明けし、すっかり夏模様様の7月20、21日、大山での鳥取断酒会—泊研修会に

参加させて頂きました。会場では、多くの出会いと感動、時には笑いのある体験談を聞かせて頂きました。亦、私も体験発表をさせて頂き、物凄く緊張しましたが、沢山の会員・家族の方達に声掛けをして頂き、充実した2日間でした。



凄く緊張した…

久しぶりに再会したアマシストの方達。初めて御会いした方もいました。分科会や研修の終わった後の自由時間には、色々な話が出来ました。お酒が無くては日々過せなかつた過去。そして今、頑張っておられる方達の姿は、私自身の反省と励みになりました。『また会いましょうね。』と言って頂き、嬉しく思いました。

寄付者御芳名

(三月度)
呉 金子武久様 五、〇〇〇円

公益社団法人 全日本断酒連盟
第四十九回

中国断酒ブロック(広島)大会

日時 平成二十六年四月六日(日)
場所 上野学園ホール

(旧郵便貯金会館)

(五月度)

呉 堂脇正美様 五、〇〇〇円

(三〜五月度)

感謝箱 二、〇五八円

(六月度)

呉みどりヶ丘病院

院長 長尾澄雄様 六〇、〇〇〇円

呉 大下忠志様 五、〇〇〇円

(七月度)

呉 福永里美様 五、〇〇〇円

感謝箱 一、四六〇円

新入会員紹介

● 呉市阿賀北一―一七―三二

第三大谷荘 河野 享

● 呉市警固屋四―一三―二二

高木 宗弘

● 呉市音戸町早瀬二―一五―三

澤原 泰幸

● 呉市阿賀中央六―八―五―五〇五

梶山 善仁

● 呉市清水一―七―九

河合 賢明

● 呉市海岸一―八―一八―七〇一

青木 大輔

断酒継続おめでとう

☆一年 金子 武久 3月1日

☆ 名田 信之 3月10日

☆ 村本 隆 5月16日

☆ 高井 行雄 7月28日

☆ 片山 久人 3月13日

☆ 北舛 武康 5月8日

☆ 福永 里美 6月30日

☆ 堂脇 正美 5月16日

☆ 熊野 克幸 7月18日

行事予定

○ 9月14〜16日

第43回広島県断酒会連合会研修会
(国立江田島青少年交流の家)

○ 9月23日

第2回リカバリーパレード
(広島市内)

○ 10月12〜13日

第23回中国断酒セミナー
(山口県セミナーパーク)

○ 10月20日

呉みどりヶ丘病院
創立43周年記念・特院

○ 11月9日

断酒宣言の日「飲酒運転追放
全国キャンペーン」(呉駅前)

○ 11月9〜10日

第18回ふくやま泊研修会
(福山市みろくの里)

○ 11月17日

第50回全国(沖繩)大会
(沖繩コンベンションセンター)

○ 12月11日

第47回酒なし忘年感謝会
(シテイプラザスキャ)

○ 12月15日

第44回院内酒なし忘年感謝会
(呉みどりヶ丘病院)

○ 平成26年1月3日

平成26年新年合同初例会
(呉みどりヶ丘病院)

平成25年3月度例会動員数

行事名	回	正会員	家族会員	賛助会員	ゲスト	院内会員	サテライト	合計
土曜例会	5	172	68	31	119	346	76	812
水曜例会	4	121	46		2			169
家族の集い	1		4					4
ブロック例会	1	12	5					17
懇談会	1	1						1
特別院内例会	1	19	4					23
新会員を囲んで	1	13	4					17
県連理事会	1	5						5
呉みどり断酒会役員会	1	8						8
合計		351	131	31	121	346	76	1,056

平成25年6〜7月度例会動員数

行事名	回	正会員	家族会員	賛助会員	ゲスト	院内会員	サテライト	合計
土曜例会	9	259	112	57	186	656	172	1,442
水曜例会	8	232	87		5			324
家族の集い	2		10					10
ブロック例会	2	19	12					31
懇談会	2	2						2
特別院内例会	2	37	11					48
新会員を囲んで	2	20	14					34
第43回広島県断酒(因島)大会	1	29	12					41
第12回島根断酒会泊研修会	1	5	1					6
県連理事会	2	8						8
呉みどり断酒会役員会	2	14						14
合計		625	259	57	191	656	172	1,960

平成25年4〜5月度例会動員数

行事名	回	正会員	家族会員	賛助会員	ゲスト	院内会員	サテライト	合計
土曜例会	8	265	95	49	138	602	151	1,300
水曜例会	9	274	92		3			369
家族の集い	2		16					16
ブロック例会	2	20	11					31
懇談会	2	2						2
特別院内例会	2	40	9					49
新会員を囲んで	2	23	9					32
第40回中国断酒ブロック(島根)大会	1	25	10					35
第69回松村断酒学校	1	6	3					9
第19回山口県断酒セミナー	1	7	2					9
県連理事会	2	11						11
呉みどり断酒会役員会	2	14						14
合計		687	247	49	141	602	151	1,877